

時間	氏名	所属	発表題目 (タイトル)	発表内容
<b>自由発表セッションA 座長 片柳真理(広島大学) 会場 第二教室</b>				
10:00-10:05	座長からの説明			
10:05-10:25	小出一博	特定非営利活動法人ADR	Emergency Livelihood Frameworkの提案	緊急期に生計回復支援が提案されても「緊急枠でなく開発枠でやるべきではないか」という指摘がなされて、その妥当性の議論が紛糾することがよくある。「緊急か開発か？」の判断基準が関係者の間で曖昧なことがその背景にある。判断基準を整理する方法としてEmergency Livelihood Frameworkという概念枠組みを提案し、イエメンの事例で検証する。
10:25-10:45	小川真吾	認定NPO法人テラ・ルネッサンス	複合的危機下におけるレジリエンス向上支援の意義と課題について～コンゴ民主共和国における生計向上支援の事業実施を事例に～	紛争や災害、感染症の拡大などの複合的危機に直面してきたコンゴ民主共和国において、生計向上支援が、どのように脆弱層のレジリエンス向上に寄与し得るのか、また、どのような課題を抱えているのかを、発表者の所蔵団体が実施した国連開発計画とのパートナーシップ事業を基に考察する。主に実践報告と事業評価結果を基にした発表内容。
10:45-11:05	田浦久美子	特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン	レバノンの難民の現状と人道支援活動	4年以上続く経済危機、COVID、首都港湾の爆発事故、さらに昨今のイスラエル・ガザ危機の派生による緊張の高まりなど、レバノンでは複合的危機が悪化し、シリア難民やパレスチナ難民などの脆弱層の生活に大きな影響を及ぼしている。レバノンの難民の現状とパレスチナ子どものキャンペーンの人道支援活動を紹介する。
11:05-11:25	フォヴェル映子	特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン	難民居住区における新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた給水衛生支援	ピースウィンズは、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行する中、ウガンダ西部チャカII難民居住地区において、衛生環境を整備するとともに、新型コロナウイルス感染症に係る正しい知識や衛生習慣の普及啓発活動を展開し、当該感染症に係る誤情報に起因した社会的混乱に対応した。その取り組みと学びを紹介する。
11:25-11:30	まとめ			
<b>自由発表セッションB 座長 赤星聖(神戸大学) 会場 第三教室</b>				
10:00-10:05	座長からの説明			
10:05-10:25	大場次郎	順天堂大学医学部附属病院練馬病院 救急集中治療科	トルコ共和国における地震被害に対する国際緊急援助隊(Japan Disaster Relief Team: JDR)医療チームの活動報告	JDR医療チームは、現在まで多数の海外医療支援の実績がある。2016年10月にWHOからEmergency Medical Team (EMT) Type2(テント型野外病院機能を持つチーム)に認証された。認証後初のEMT Type2としての活動であり、その経験を報告する。
10:25-10:45	平山恵	明治学院大学	民意による人道支援の可能性に向けて	現場で活動ができない人道支援が増えている。現場で活動ができて支援のニーズが供給を大幅に超えている。問題の根源の解決に向かう人道支援はできないものだろうか。難しくても「暴力」を止めようとする大量の民意の醸成による人道支援の在り方を考えたい。報告者の試行の不足点を発表することでその可能性を探る。
10:45-11:05	Thevarajah Aathirai	広島大学大学院人間社会科学部研究科 国際平和共生プログラム	Challenges and Opportunities for Women's Empowerment through Humanitarian Mine Action Employment (人道的地雷対策の雇用を通じた女性のエンパワーメントの課題と機会)	人道的地雷対策は紛争後地域の安全に不可欠で、地雷除去という直接的成果があるほか、紛争後の地域社会や元戦闘員に就業機会を創出する。地雷除去は軍事的能力に関わるため男性優位の分野だが、女性の雇用も見られる。本研究は人道援助と平和構築の繋がりにという視点から、地雷除去の雇用を通じた女性のエンパワーメントの機会と課題を探る。
11:05-11:10	まとめ			